

# 意見書

公益社団法人 日本動物福祉協会

平成 29 年 12 月 19 日  
くずのは動物病院院長  
獣医師・博士（獣医学）  
佐伯 潤

福井県の動物取扱業者について、報告書と画像を確認し、臨床獣医師としての立場からの意見を提出する。

## 記

### 1. 飼育環境

多頭数が密集して飼育されており、犬のストレスは大きく、感染症が発生すれば拡散しやすい状況にあると言える。すでに消化管内寄生虫や外部寄生虫、皮膚糸状菌等が蔓延している可能性がある。

温度管理も行われていないということから、給餌量が不足している可能性があり、栄養要求量が高くなる冬季に入ると衰弱する個体が出る可能性がある。眼に外傷のある犬もいるとの報告もあり、ストレスによる犬同士の喧嘩や爪の過長との関連が疑われ、適切な治療も行われていないものと推測する。

### 2. 栄養状態

画像で確認できる範囲では、著しく栄養状態の悪い犬は少数であると思われる。報告書によると、群れで飼育されているが、給餌時は個別に与えているとしている。しかし、削瘦している個体が認められていることから、十分な管理が行われているかは疑問である。

### 3. 感染症

前述のように、すでに消化管内寄生虫や外部寄生虫、皮膚糸状菌等が蔓延している可能性がある。その他、繁殖を行なっている動物取扱業者で拡散しやすい感染症として、犬ブルセラ症がある。犬ブルセラ症は *Bruceella canis* による人と動物の共通感染症で、感染症法では 4 類感染症となっている。雌犬での流産、雄犬での精巣炎など以外の一般症状はあまり見られず、犬同士は、流死産胎子、悪露、尿の経口あるいは経粘膜感染する。報告書には繁殖障害の情報はないが、様々な犬種を飼育しており、外部からの犬の導入も行っている可能性もあり、他の犬の糞尿に接触する可能性が高い飼育環境からは犬ブルセラ症が発生している可能性も考えるべきだと思われる。

(最も危惧する点)

劣悪な飼育環境であるのみではなく、多頭数が群れで飼育されていることから、特に感染症の蔓延を危惧する。人と動物の共通感染症でもある犬ブルセラ症は、繁殖や感染犬の尿によって拡散し、この施設のような状況では蔓延している危険性もある。もし感染犬がいた場合には、重大な公衆衛生上の問題となるため、検査や飼育環境の改善も含め、行政や専門家による指導が必要な状況と考える。

以上